

平成 29 年度からの 第九中学校区の小中一貫教育の方向性について（概要）

足立区立第九中学校

経緯と動向

平成 28 年度まで

研究主題

「確かな学力の定着を図るための指導の在り方-足立スタンダードを基礎とした義務教育 9 年間の学習指導の充実-」

実施方法

- ・ 九中と梅島小の小中連携と、亀田小と梅島第二小の小小連携による研究
- ・ 教科等分科会をベースに研究を進める

研究成果

体系的な指導の理解と授業力の向上

今、求められている教育

中央教育審議会答申より

- ・ 学習指導要領等の改善の方向性
育成を目指す資質と能力など、「学びの地図」として 6 点に沿った枠組みの見直し
カリキュラムマネジメント
アクティブ・ラーニングの視点

足立区、第九中学校区

- ・ 足立区基本構想（平成 28 年 10 月策定）
「協創力でつくる **活力**にあふれ 進化し続ける ひと・まち 足立」
- ・ 第九中学校区
人情味や活力にあふれた地域
古くから住む人と新しく来た人が混在し教育への期待が大きい地域

小中一貫教育の方向性

- ・ 国や都の施策
一貫教育の推進、指導体制の整備
- ・ 区の施策
平成 30 年度から全地域で小中連携

基本的な考え方（研究内容と組織）

○ 研究主題

9 年間を見通した、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫
— 東京オリンピック・パラリンピックを見据えた活力ある子どもの育成 —

○ ねらい

- ・ 中央教育審議会答申にある「育成を目指す資質や能力」の効果的な指導法に関する実践的な研究を行い、授業力を図る。
- ・ 小・中学校の協働により、国際感覚を養うとともに、自ら課題を発見し、他者と関わり、主体的に解決する子どもを育成する。
- ・ 学習習慣や生活習慣の確立など、活力ある子どもの育成を目指す。

○ 組織・運営

- ・ 校長、副校長、教務主任及び研究主任で構成する推進委員会を設置し、円滑な運営を図る。
- ・ 全体会を含め年間 6 回の 4 校での研究会を設け、それぞれの発達の段階におけるよりよい授業づくりや、教員の授業力向上を図る。
- ・ 各校の状況を踏まえ、研究日以外でも連携を図り研究を推進する。
- ・ 年間 2 回の検証授業を実施し、協議と講師の指導等を設定する。
- ・ 研究主題に迫るため、「学び方」「国際理解」「体力向上」の 3 つの部会を設置し、全体会で研究成果を発表する。

学び方部会

1 構成

国語科、算数・数学科、理科

2 内容

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、各発達の段階や、授業の導入・展開・まとめで、どのように入れると有効なのかの実践的研究を行う。
※ 例:マトリクス等でまとめる。

3 その他

- ・ 検証授業を 2 回行う。
- ・ いわゆるアクティブ・ラーニングの視点で研究する。

国際理解教育部会

1 構成

外国語・英語科、社会科、生活科、音楽科、図工・美術科

2 内容

東京オリンピック・パラリンピックを見据え、日本や異国の伝統・文化等を理解する。また、様々な交流や、英語による日本や地域の紹介を行う。
各学年段階等において身に付ける力を検討し、その実践的研究を行う。

3 その他

- ・ 検証授業を 2 回行う。
- ・ 小学校の英語教育を考える。

体力向上部会

1 構成

体育・保健体育科、家庭・技術・家庭科、養護、栄養

2 内容

体力を高めるための運動、食育、生活習慣や運動習慣の確立の視点から、体力が高まり、活力がある生活を送るための学習内容や、学習過程及び教材開発の実践的研究を行う。

3 その他

- ・ 検証授業を 2 回行う。
- ・ 子どもの体力や生活習慣等の現状を把握し、課題を明確にする。

研究のまとめ

**1 年次：各分科会で授業を行い、研究成果を紙面にまとめる（様式を示す）。
2 年次：2 年次のまとめとともに、2 年間の研究を小冊子にまとめる。**